

2023年12月10日降臨節第2主日説教

イザヤ書 40 章 1-11 節

ペトロの手紙二 3 章 8-15a、18 節

マルコによる福音書 1 章 1-8 節

降臨節第2主日となりました。二本目のアドベントキャンドルが灯されました。二本目のキャンドルの意味は、「愛」、「信仰」など諸説あります。「愛」も「希望」も『聖書』にある根本的な主題ですが、本日の聖書日課からもその主題を見出すこともできると思います。

イザヤ書 40 章は、『慰めよ、慰めよ、私の民を』と、あなたがたの神は言われる（イザヤ 40:1）という言葉から始まっているとおりに、慰めの書とされています。この慰めの言葉の背後には、バビロン捕囚の終わりがあります。このバビロン捕囚という出来事は、世界史的視点で見ますと、大国間の間に起こった勢力争いに、小国であるイスラエルが巻き込まれた出来事にすぎません。その意味では、世界情勢の大きな変化の中、小さな出来事のひとつといえるでしょう。また、わたしたちの住む地域とは、時代も場所も異なりますから、どれほどの関わりがあるかとも思えます。しかし、わたしたちにとって、今も大切なことがそこにはあります。それは、「バビロン捕囚」という混乱とその終焉に際して、イスラエルの人々が、何に耳を傾け、何に基づいて歩んだか、それを本日の旧約日課が示しているということです。その示された内容は、時と場所が異なるとしても、同じように『聖書』の主なる神さまを信じるわたしたちにとって、大切な事柄です。

「エルサレムに優しく語りかけ、これに呼びかけよ」（イザヤ 40:2）とありますが、捕囚から解放されたエルサレム（イスラエル）にとって、「慰めよ」で始まる主の言葉は、単に優しい言葉がけではありません。続いて「荒れ野に主の道を備えよ。私たちの神のために、荒れ地に大路をまっすぐに通せ。谷はすべて高くされ、山と丘はみな低くなり、起伏のある地は平らに、陰しい地は平地となれ。こうして主の栄光が現れ、すべての肉なる者は共に見る。主の口が語られたのである」（イザヤ 40:3~5）と、「主の栄光」を受け入れる備えをするようにも、呼びかけられるからです。つまり、バビロン捕囚は終わるが、地形が大きくわかるような心身の方向転換にこそ、主なる神様の呼びかけに答えた、再出発の土台がある、イザヤ書のこの部分はそう語っているのです。

しかし、イザヤ書は、イスラエルの人々の現実をも直視しています。主なる神様の声が、すぐに人々に響くと考えていないのです。それは、預言者自身が「私は言った。『何と呼びかけたらよいのでしょうか。』『すべての肉なる者は草、その栄えはみな野の花のようだ。草は枯れ、花はしぼむ。主の風がその上に吹いたからだ。』（イザヤ 40:6~7）と応答しているとおりにです。主なる神様が、どれほど慰めの言葉と、回復への希望の言葉を語っても、有

限である人間は、その有限である地平に立ったまま、それを受け入れようとすると、うまく理解できないのです。人間が人間の地平だけで考えて、そこから正義、平和などありとあらゆる善と思われる事柄を考え、それを実行しようとしたとしても、草や花のように、時が変われば、それらはなくなってしまふからです。しかし、預言者の言葉は解決の道を示します。「**草は枯れ、花はしぼむ。しかし、私たちの神の言葉はとこしえに立つ**」(イザヤ 40 : 8)からです。神の言葉は「とこしえ」、すなわち永遠なのです。

このイザヤ書の言葉は、バビロン捕囚という歴史的出来事を通して、人間は、何を中心にして生きるのかと問いかけています。その問いかけは、わたしたちにとっても大きな意味を持ちます。過去の歴史に、「もしも」と問うことは、あまり意味はないのかもしれませんが、『聖書』は、バビロン捕囚をイスラエルが主なる神さまに背いたからと理解しています。それゆえに、バビロン捕囚の終焉を、人間の地平だけで考えて、単なる民族と王国の回復としかみないのであれば、その先にあるのは新たな世界情勢の変化による再度の破壊の可能性のみです。同じことが繰り返されるでしょう。しかし、そうであるがゆえに、イザヤ書は、永遠なる主なる神さまの言葉に基づいて立ち歩みなさいとイスラエルの人々に語っているのです。その言葉は、今日の私たちにとっても大切な言葉に他ならないのです。

しかし、イザヤ書は、永遠なる主の神さまの言葉に基づいて立ち歩みなさいと語るのですが、現実を直視しないで歩みなさいとはしていません。人間は有限であり、枯れる草や花であるという現実をしっかりと見ることが大切なのです。枯れる草や花である自分たちが、永遠に立ち続ける大木であるかのように錯覚した結果が、バビロン捕囚であったともいえます。だからこそ、永遠である主なる神さまを信じる時、枯れる草や花であっても、それを超える道が示されると語っているのです。また、逆に、現在、地上で、この世界で起こっている本当に悲しい争いや、人々の痛みや悲しみ、それらをただ直視するとき、その現実を見るがゆえに、この世界にはなんの希望もないと思ってしまう場合もあります。しかし、この世界を超えた、言うならば天上にある主なる神さまの言葉に、本当の立つ場所があると確認するとき、再び歩む希望と力が出てくるのです。これは、この世界にある格言や処世術を超えた、『聖書』ならではの励ましです。

「見よ、主なる神は力を帯びて来られ、御腕によって統治される。見よ、その報いは主と共にあり、その報酬は御前にある。主は羊飼いのようにその群れを飼い、その腕に小羊を集めて、懐に抱き、乳を飲ませる羊を導く」(イザヤ 40:10-11)。わたしたちにとって、この出来事を起こしてくださるのは、イエス・キリストです。その力とは、「愛」の力であり、その「統治」はすべての人を受け入れてくださる十字架の姿に示されます。その方の誕生を今年も祝います。いつの日か、地上に平和が訪れることを願いつつ、希望をもって主なる神さまを信じ続けたいと思います。